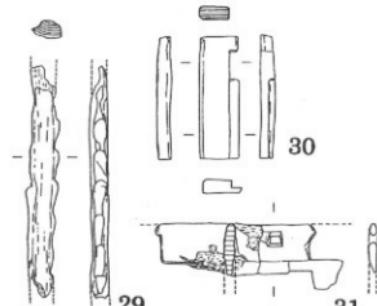


25



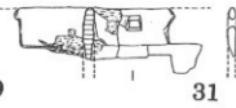
26



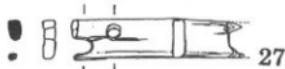
29

30

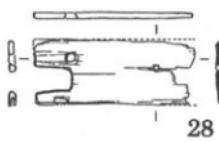
29



31



27

100cm
0

28



32



33



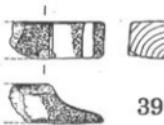
34



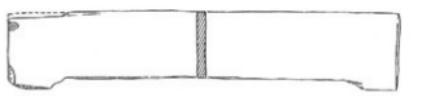
35



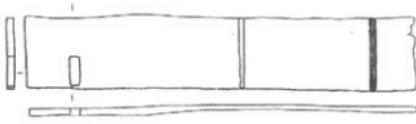
36



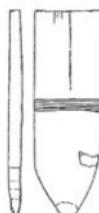
39



37



38



40

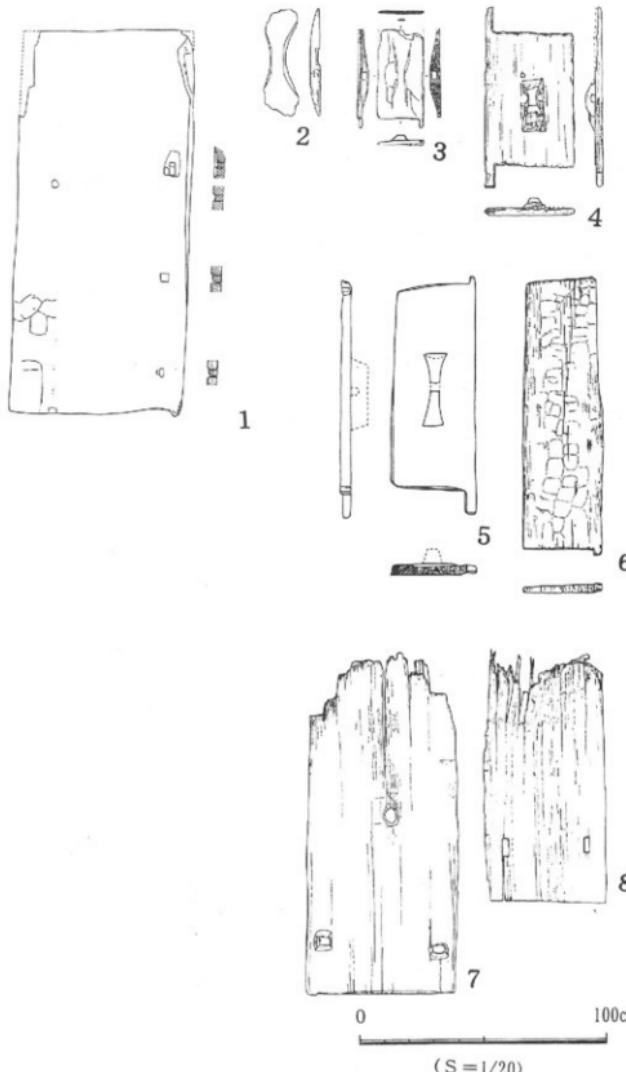
0
50cm

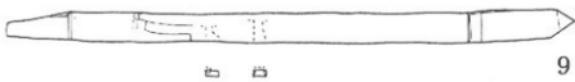
(25~28はS=1/20、29~40はS=1/10)

遺跡名：和爾・森本遺跡 所在地：奈良県天理市 古墳時代中～後期

文献：奈良県立橿原考古学研究所『天理市和爾・森本遺跡』奈良県史蹟名勝天然記念物調査報告第45冊 1983

奈良県立橿原考古学研究所『天理市和爾・森本遺跡Ⅱ』奈良県史蹟名勝天然記念物調査報告第58冊 1988





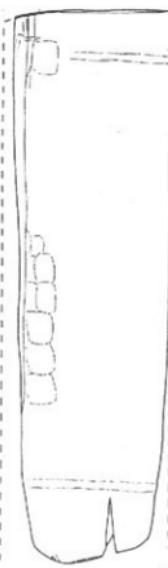
9



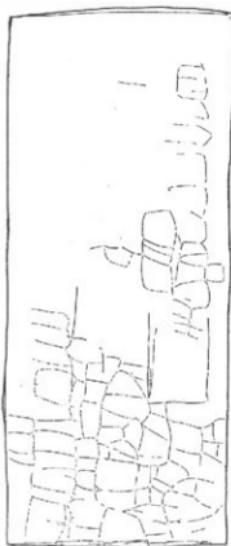
10

13

14



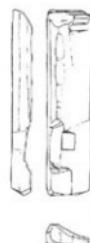
11



12

0 100cm

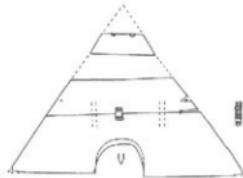
(S = 1/20)



15



16



17



18



19

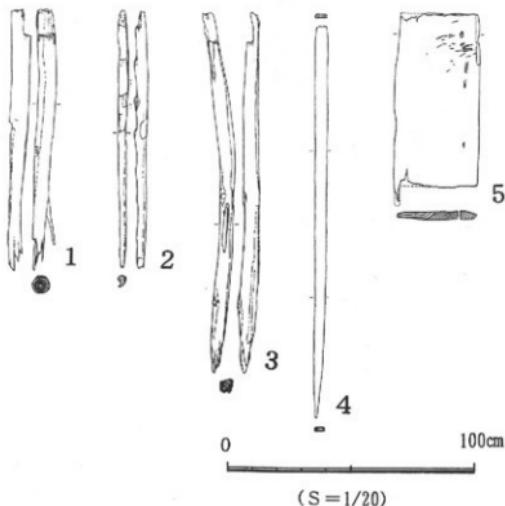
1. 檜と樺と小溝が掘り込まれた材（木樓、長 401 cm、幅 89 cm、厚さ 7 cm）
2. 全体が樅状に加工された材（木樓、長 382 cm、幅 24 cm、厚さ 3.3 cm）
3. 全体が樅状に加工され、台が固定されるほぞ穴のある材（木樓、長 275 cm、幅 43 cm、厚さ 3.5 cm）
4. 切欠きとほぞ穴のある材（木樓の台、長 104.3 cm、幅 25 cm、厚さ 1.5 cm）
5. 木樓に接して設けられた敷板（板材、長 380 cm、幅 20.5 cm、厚さ 2.5 cm）
6. 木樓に接して設けられた敷板（板材、長 388 cm、幅 22 cm、厚さ 3 cm）
7. 木樓に接して設けられた敷板（板材、長 386 cm、幅 20 cm、厚さ 2 cm）
8. 小口端部を斜めに切り落とした材（壁板、長 375 cm、幅 30 cm、厚さ 2 cm）
9. 小口端部を斜めに切り落とした材（壁板、長 22.4 cm、幅 6 cm、厚さ 1.2 cm）
10. 脚構えを設置した可能性がある幅広の削り込みのある材（壁板、長 188 cm、幅 16.5 cm、厚さ 1.5 cm）
- 11.（壁板、長 134 cm、幅 5.5 cm、厚さ 1 cm）
12. 端部を杭状にした材（柱材、長 99.5 cm、径 13 cm）
13. 端部を杭状にし、軸線上の 2 方向に壁板落としこみ用の縦溝がある材（柱材、長 134.9 cm、径 13.5 cm）
14. 端部を杭状にし、軸線上の 2 方向に壁板落としこみ用の縦溝がある材（柱材、長 123 cm、径 11.5 cm）
15. 棟持ち柱に相当する材（柱材、長 113 cm、径 15 cm）
16. 端部を杭状にし、軸線上の 2 方向に壁板落としこみ用の縦溝がある材（柱材、長 138 cm、径 13.5 cm）
17. 端部を杭状にし、軸線上の 2 方向に壁板落としこみ用の縦溝がある材（柱材、長 135.5 cm、径 13.5 cm）
18. 端部を杭状にした材（柱材、長 125 cm、径 13 cm）
19. 棟持ち柱に相当する材（柱材、長 113 cm、径 14.5 cm）
20. 表裏に互い違いの欠込がある材（垂木か、長 193.5 cm、径 5.5 cm）
21. 切欠きのある材（屋根構造材、長 43.6 cm、幅 6.6 cm、厚さ 3 cm）
22. ほぞ穴のある材（垂木か、長 91 cm、幅 4.3 cm、厚さ 3.3 cm）
23. 表裏に互い違いの欠込がある材（垂木か、長 78.5 cm、幅 5.5 cm、厚さ 3 cm）
24. 両端を尖らせた材（垂木か、長 76.8 cm、幅 1.4 cm、厚さ 0.7 cm）
25. 側面に方形の貫通孔のある材（扉把手、長 80 cm、幅 18 cm、厚さ 0.6～5 cm）
26. 一木から把手が造り出され、その側面に方形の貫通孔がある材（扉材、長 132 cm、幅 36 cm、厚さ 4 cm）
27. 半円形の削り込みと軸穴のある材（蹴放し材か、長 68 cm、15.6 cm、厚さ 4.7 cm）
28. 方形の削り込みと軸穴とほぞ穴のある材（蹴放し材か、長 64 cm、幅 25.6 cm、厚さ 3.2 cm）
29. 側辺に V 字状の抉りが連続して施された材（棒材、長 47.8 cm、幅 3.4 cm、幅 4 cm）
30. 側辺にコの字の切欠きと段差を設けた材（板材、長 25.4 cm、幅 7.9 cm、厚さ 2.8 cm）
31. ほぞ穴のある材（板材、長 37.3 cm、幅 13.4 cm、厚さ 2.2 cm）
32. L 字状の切欠きのある材（板材、長 59.9 cm、幅 6.1 cm、厚さ 1.9 cm）
33. 切欠きのある材（屋根構造材か、長 40 cm、幅 5 cm、厚さ 1.2 cm）
34. 切欠きのある材（屋根構造材か、長 38.2 cm、幅 3.7 cm、厚さ 3.3 cm）
35. 端部を斜めに切り落とした材（板材、長 21.9 cm、幅 9.2 cm、厚さ 1.3 cm）
36. 端部に方形の突出部を造り出した材（角材、長 74.8 cm、幅 11.5 cm、厚さ 2.7 cm）
37. 浅い台形状の削り込みがある材（板材、長 77.9 cm、幅 15.6 cm、厚さ 1.6 cm）
38. ほぞ穴のある材（板材、長 79 cm、幅 14.6 cm、厚さ 1.3 cm）
39. 端部に弧状の削り落としがある材（角材、長 18.8 cm、幅 8 cm、厚さ 7.9 cm）
40. 端部を切り落として尖らせた材（矢板、長 41.5 cm、幅 13.7 cm、厚さ 2.6 cm）

1. ほぞ穴と軸状の突出がある材（扉板か、長 155 cm、幅 68 cm、厚さ 4.8 cm、ヒノキ）
2. 側面に長方形の貫通孔のある材（扉把手、長 44 cm、幅 14 cm、厚さ 2.6 cm、モミ）
3. 突出する軸部と側面に方形の貫通孔をもつ把手がそれぞれ一本から造り出された材（扉板）
4. 上下に突出する軸部と側面に半円形の貫通孔をもつ把手がそれぞれ一本から造り出された材（扉板、長 73 cm、幅 36.6 cm、厚さ 3.2 cm、ヒノキ）
5. 突出する軸部と把手剥離痕のある材（扉板、長 96.4 cm、幅 34.4 cm、厚さ 4.6 cm、ヒノキ）
6. 突出する軸部がある材（扉板、長 113.2 cm、幅 33 cm、厚さ 3.4 cm、ヒノキ）
7. ほぞ孔のある材（板材、長 137.4 cm、幅 60.4 cm、厚さ 4 cm、ヒノキ）
8. ほぞ孔のある材（板材、長 105 cm、幅 49 cm、厚さ 3 cm、ヒノキ）
9. 切欠きと小孔のある材（板材、長 93 cm、幅 13.5 cm、厚さ 5 cm、モミ）
10. 側面に溝がある材（板材、長 148 cm、幅 20 cm、厚さ 4 cm、モミ）
11. 上方へ立ち上がる屈曲部をもつ材（檻の側板か、長 89 cm、幅 2.6 cm、厚さ 2 cm、モミ）
- 12.（板材、長 87.8 cm、幅 37 cm、厚さ 3 cm、モミ）
13. ほぞ穴と溝と切欠きのある材（板材、長 103 cm、幅 7.8 cm、厚さ 3.7 cm、ヒノキ）
14. ほぞ穴のある材（板材、長 86 cm、幅 19.8 cm、厚さ 6.5 cm、ヒノキ）
15. 欠込とほぞ穴のある材（壁板か、長 75 cm、幅 18 cm、厚さ 4.1 cm、ヒノキ）
16. ほぞ孔のある材（板材、長 104 cm、幅 28.8 cm、厚さ 4.4 cm、ヒノキ）
17. 4 枚の板を三角形状に組ぎ、接ぐための小孔と楔と緊縛材があり、下辺に半円形の切欠きがある材。（妻覆い、下部長 95.2 cm、高さ 70 cm、厚さ 2 cm、ヒノキ）
18. 切欠きと未貫通の円孔のある材（柱材、長 72 cm、径 16 cm）
19. 貫穴のある材（柱材、長 106 cm、径 15 cm）

跡名：伴堂東遺跡 所在地：奈良県磯城郡川西町 古墳時代中～後期

文献：奈良県立橿原考古学研究所『伴堂東遺跡』奈良県橿原考古学研究所調査報告第 49 冊 2002

- 1.切欠きのある材（井戸枠部材、長 106.8 cm、径 5.7 cm）
- 2.切欠きのある材（井戸枠部材、長 104.8 cm、幅 5 cm）
- 3.切欠きのある材（井戸枠部材、長 147 cm、幅 5.4 cm）
- 4.端部を鋭くした材（板材、長 160 cm、幅 5 cm、厚さ 1.8 cm）
- 5.軸部を造り出し、小孔が穿たれた材（扉材、長 71 cm、幅 34 cm）



遺跡名：平城京左京三条二坊下層遺跡 所在地：奈良県奈良市 古墳時代後期

文献：奈良國立文化財研究所『平城京左京三条二坊』奈良國立文化財研究所学報第25冊

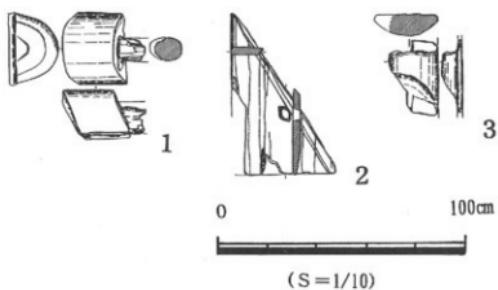
1975

1.正面木口に転びをもち、重強文風の飾りをほどこし、円柱状の突出をもつ材（棟端飾り、長17.1cm、

幅14.6cm、高さ10cm、針葉樹）

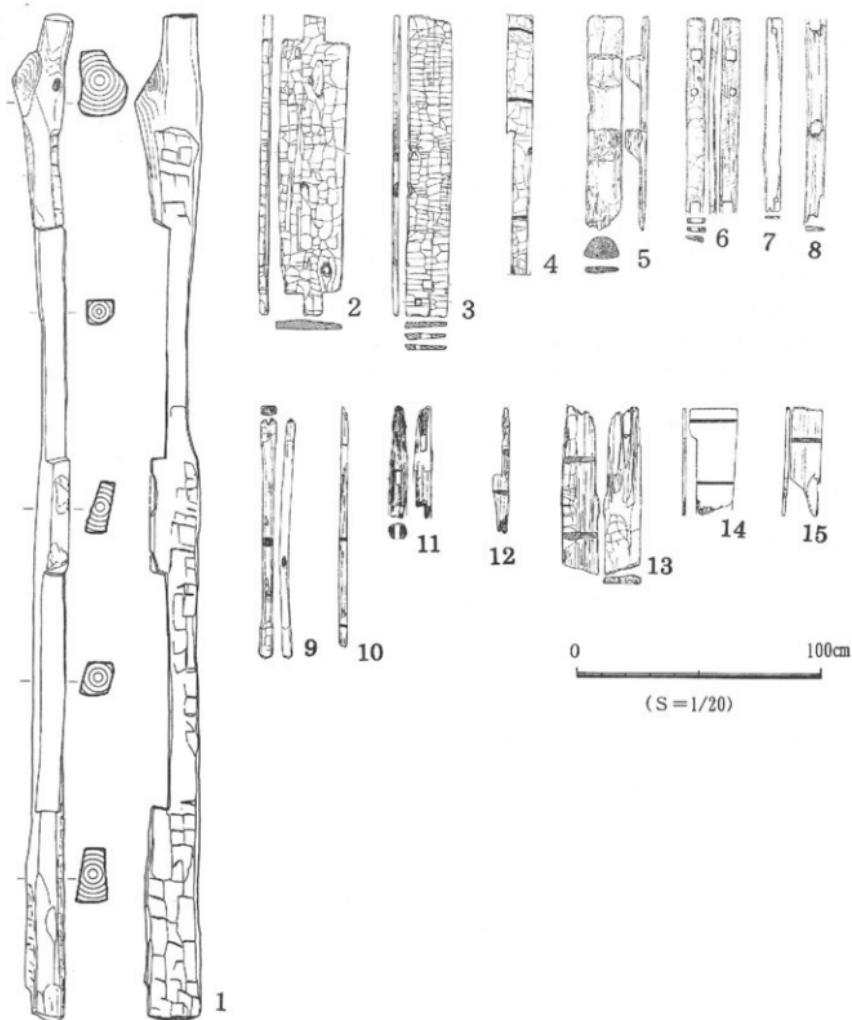
2.孔と切込みがある直角三角形の板材（妻覆いか、長35.7cm、幅21.8cm、厚さ1.5cm、広葉樹）

3.一本から足掛部が造り出された梯子（長15cm、幅13cm、広葉樹）



遺跡名：布留遺跡 所在地：奈良県天理市 古墳時代後期

文献：埋蔵文化財天理教調査団『布留遺跡三島（里中）地区発掘調査報告書』 1995



1. 切欠きのある材（板材、アカガシ亜属）
2. ほぞが造り出された材（井戸枠か、長 122.4 cm、幅 27 cm、厚さ 3.5 cm、モミ属）
3. ほぞ穴のある材（板材、長 122.7 cm、幅 17.5 cm、厚さ 2.4 cm、ヒノキ）
4. 中位から 1 段幅が狭くなり、その段に半円形の削り込みがある材（板材、長 65.2 cm、幅 10 cm、厚さ 1.5 cm、ヒノキ）
5. 一本から足掛け部が造り出された梯子（長 87.9 cm、幅 13.6 cm、厚さ 3.1 cm、ヤマザクラ型）
6. 軸孔と方形孔がある材（扉口装置か、長 79.6 cm、幅 7.5 cm、厚さ 3.5 cm、モミ属）
7. ほぞ穴のある材（板材、長 79.9 cm、幅 6.5 cm、厚さ 0.9 cm、ヒノキ）
8. ほぞ穴のある材（板材、ヒノキ）
- 9.両端が幅広になり、端部に切り込みをもつ材（棒材、長 88.9 cm、径 4.3 cm）
- 10.（角材、長 98.2 cm、幅 3 cm、厚さ 0.5 cm）
- 11.直交する面それぞれにはほぞ穴がある材（角材、幅 7 cm、厚さ 7 cm、コウヤマキ）
- 12.切欠きがある材（板材、長 51.1 cm、幅 6.3 cm、厚さ 2 cm）
- 13.（板材、長 69 cm、幅 14.5 cm、厚さ 2.5 cm、モミ属）
- 14.抉りのある材（板材、長 43.1 cm、幅 19.5 cm、ヒノキ属）
- 15.抉りのある材（板材、長 44.2 cm、幅 12.3 cm、厚さ 2.5 cm、ヒノキ）

遺跡名：星塚 1・2 号墳 所在地：奈良県天理市 古墳時代後期

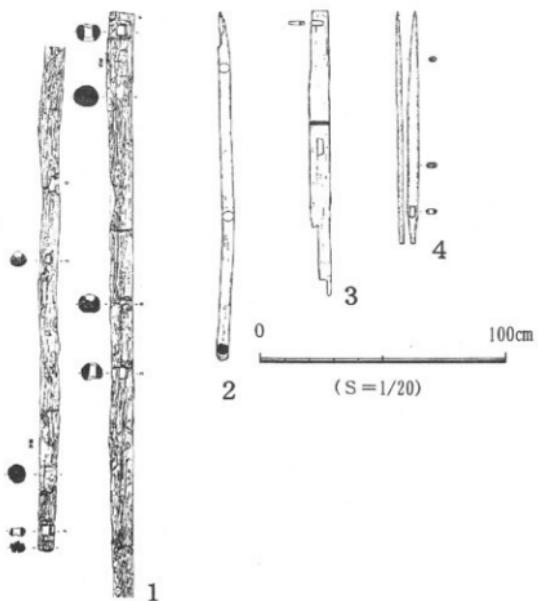
文献：天理市教育委員会『星塚・小路遺跡』天理市埋蔵文化財調査報告 第4集 1989

1. ほぞ穴と末貫通の方形孔が一定間隔である材（横架材か、長 447 cm、径 10 cm、アカガシ亜属）

2.（棒材、長 144 cm、スギ）

3. ほぞ穴のある材（板材、長 110 cm、幅 8 cm、ヒノキ）

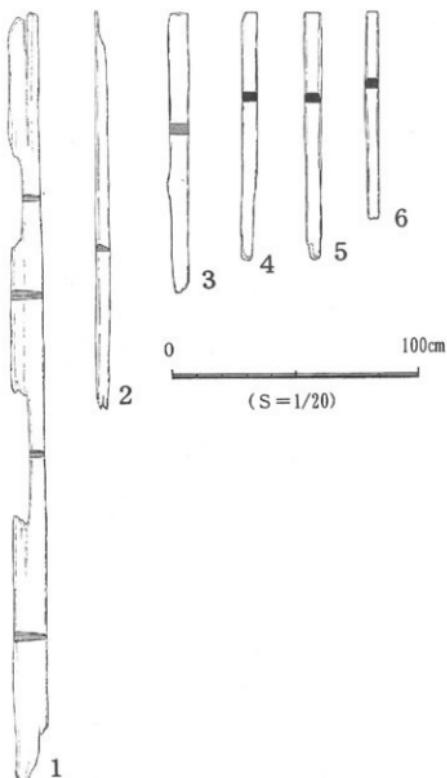
4. ほぞ穴があり、端部を鋭くする材（棒材、長 95.8 cm、ヒノキ）



遺跡名：御墓山古墳 所在地：奈良県天理市 古墳時代後期

文献：天理市教育委員会『御墓山古墳』天理市埋蔵文化財調査概報 平成4・5年度（1992・1993年） 1996

1. 切欠きのある材（板材、長320cm、コウヤマキ）
- 2.（棒材、長162cm、コウヤマキ）
- 3.（角材、長115cm、厚さ4.5cm）
- 4.（角材、長115cm、厚さ3.8cm）
- 5.（角材、長115cm、厚さ4cm）
- 6.（角材、長85.5cm、厚さ4cm）



遺跡名：勝山東古墳 所在地：奈良県桜井市 古墳時代後期

文献：桜井市教育委員会『纏向遺跡第79次発掘調査報告』平成6年度国庫補助による発

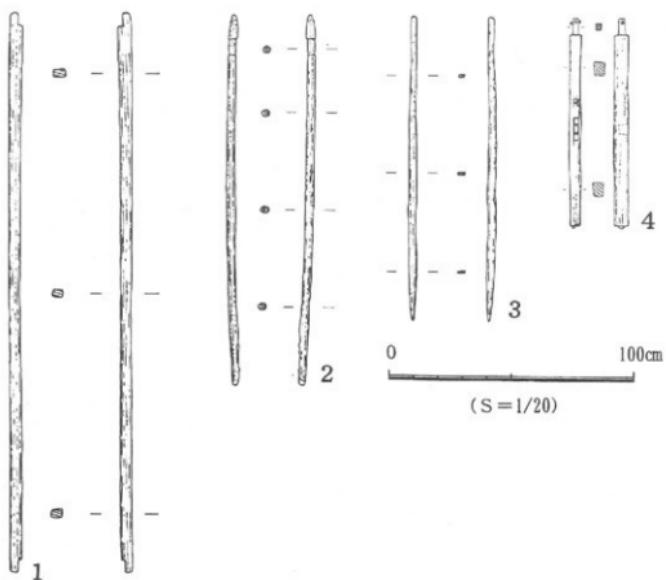
掘調査報告書2 桜井市立埋蔵文化財センター発掘調査報告書 16集 1995

1.両端を切欠いた材（角材、長229cm、幅3cm×5cm、ヒノキ）

2.一回り径の小さい部位を造り出した材（棒材、長152.6cm、径3.6cm、スギ）

3.端部を鋸くする材（板材、長124cm、幅3.2cm、厚さ0.9cm、ヒノキ）

4.ほぞが造り出され、その部分に小孔と木釘があり、凸形の末貫通孔が穿たれた材（角材、85.8cm、幅4.8cm×5.8cm、ヒノキ科）



和歌山県の概要

鈴木裕明

和歌山県の建築材の出土例は、管見にのぼるところでは弥生時代中期以降にみられる。中期の資料として、杭材及び棒材が岡村遺跡にあるが、仕口を活用したような明確な建築材ではない。

古墳時代になると仕口が造り出された建築材が、多数確認できるようになる。相欠き、ほぞ、繩欠け溝が比較的多く、それ以外に板接ぎ、溝、蟻ほぞ、括れといった仕口の種類が確認できる。前期には頂部に切欠き、欠込（頭貫き？）のある柱材が野田・藤並地区遺跡に確認でき、これらはいずれも心持ち削り出し材である。枝分かれした部位を残し、そこを境に下位は断面円形、上位は一回り小さく半裁された形状となり、端部を杭状にする柱材が、徳藏地区遺跡から出土している。これは高床建物用の柱となる可能性が考えられ、いずれも心持ち削り出し材である。端部に切欠きと繩掛け溝がある横枠材と考えられるものも、徳藏地区遺跡から出土している。木取りは心持ち削り出し材である。垂木とみられる欠込と繩掛け溝のある材も、徳藏地区遺跡から出土しており、これらの木取りはいずれも丸太材となっている。ほぞ穴が複数穿られた板材は、野田・藤並地区遺跡と徳藏地区遺跡に確認でき、徳藏地区遺跡例は未貫通孔で、更に側面に溝がある。側辺や短辺を斜めに切り落とした板材が、野田・藤並地区遺跡にあり、これらは壁板の可能性がある。一本から足掛け部が造り出された梯子も、野田・藤並地区遺跡にある。中期には鳴神II遺跡に建築材が確認できる。報告で「屋根形木製品」とされる、装飾的な凹凸をもつ断面三角形の意匠を造り出し、そこから連続する欠込・突出部と反対面にはほぞ穴をもつ材が出土している。更にこの材には付属して蟻ほぞをもつ、方形で中心に孔のある環状の材がある。環状材は鐘向遺跡に同様のものがある。この材については、付属の環状材が扉軸孔となる方立とする復元案がある。またこの材と組み合う可能性のある上方に抉りから連続する軸、下方にも突出する軸をもつ扉材がある。上方の抉りから連続する軸は前述の環状材と組み合う可能性がある。またこの扉材の側辺には、L字状の切り落としと板接ぎ用とみられる方形孔がある。同様に板接ぎ用とみられる方形孔のある板材も出土している。

仕口総括表

時代	貫穴	渡りあご	相欠き（欠込・切欠き）	ほぞ	板接	繩掛け溝	溝	蟻ほぞ	括れ
繩文									
弥生	△	△	△	△	△	△	△	△	△
古墳	△	△	○	○	○	○	○	○	○

文献一覧

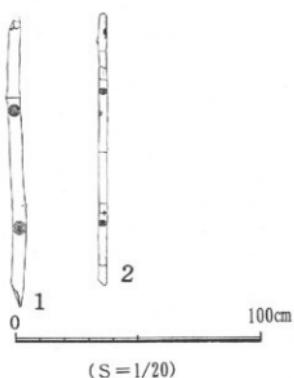
1. 岡村遺跡 (社) 和歌山県文化財研究会『岡村遺跡発掘調査概報』—亀の川改修工事に伴う発掘調査— 1983
2. 野田・藤並地区遺跡 和歌山県教育委員会『野田・藤並地区発掘調査報告書』—海南湯浅道路に伴う発掘調査— 1985
3. 徳藏地区遺跡 (財) 和歌山県文化財センター『徳藏地区遺跡』—国道424号線道路改築事業に伴う発掘調査報告書— 2003
4. 鳴神II・V遺跡 和歌山県教育委員会『昭和45年度阪和高速道路(近畿自動車道和歌山線)遺跡発掘調査概報』1971

遺跡名：岡村遺跡　所在地：和歌山県海南市　弥生時代中期

文献：(社)和歌山県文化財研究会『岡村遺跡発掘調査概報』—亀の川改修工事に伴う発掘調査— 1983

1 (杭材、長 118 cm、径 5 cm、ナラ科)

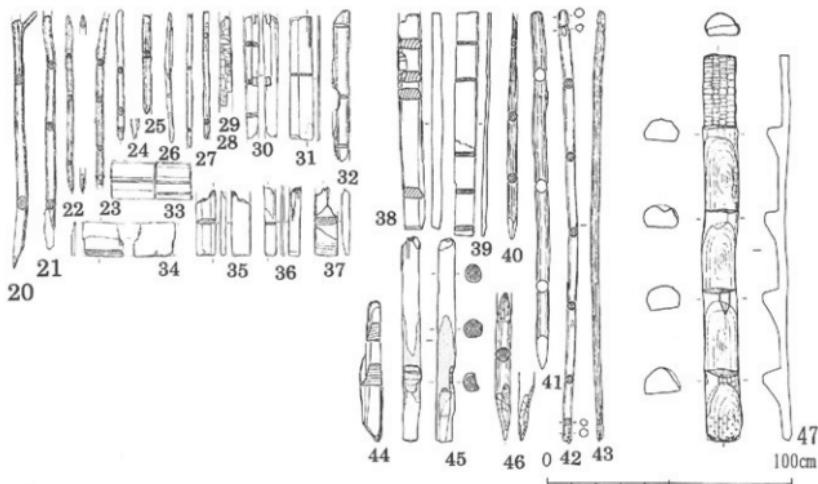
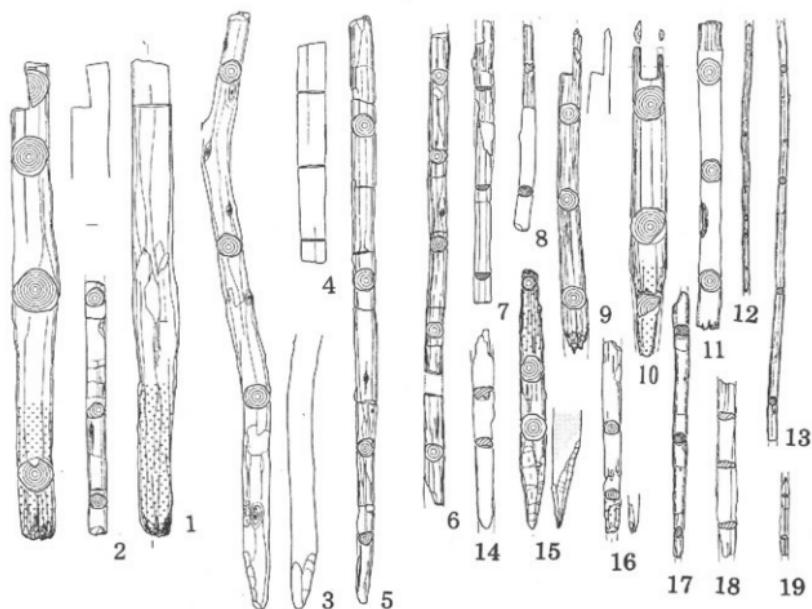
2 (棒材)



遺跡名：野田・藤並地区遺跡

所在地：和歌山県有田郡吉備町 古墳時代前期

文献：和歌山県教育委員会『野田・藤並地区発掘調査報告書』－海南湯浅道路に伴う発掘調査－ 1985

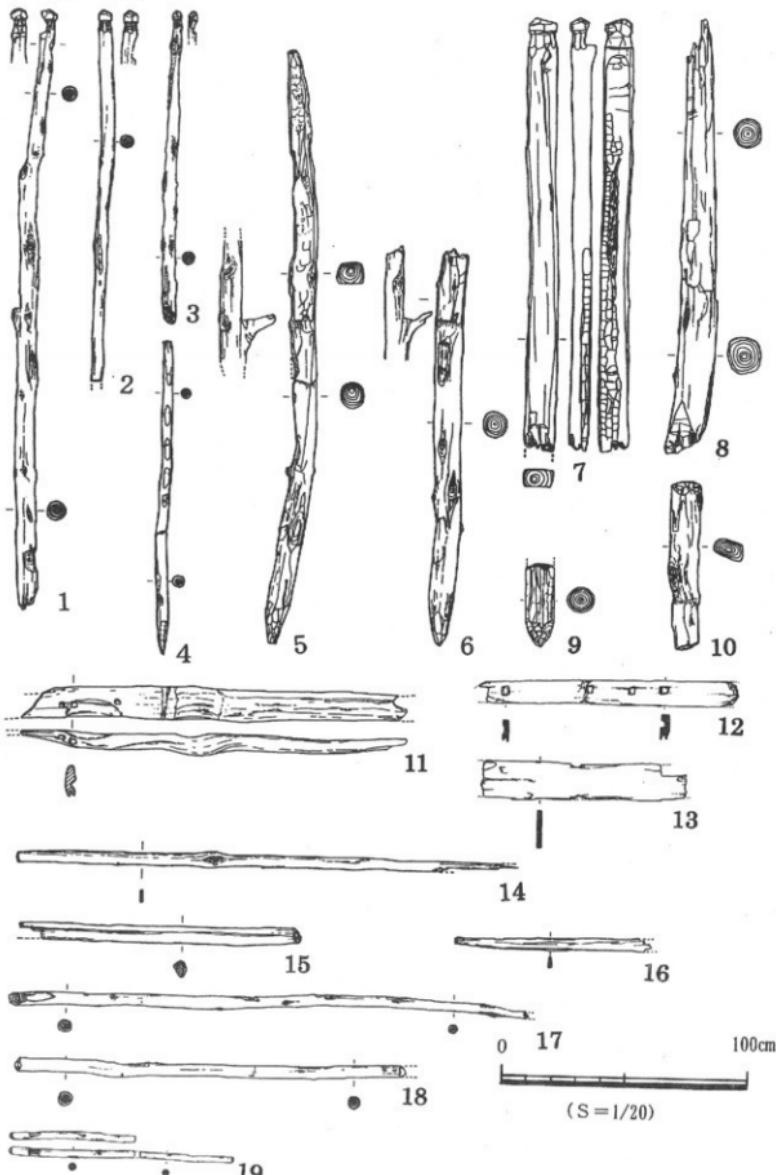


(S = 1/20)

1. 切欠きのある材（柱材、長 196 cm、径 12~20 cm）
- 2.（柱材、長 104 cm、径 8 cm）
3. 端部を杭状にする材（柱材、長 245 cm、径 9~13 cm）
- 4.（壁板か、長 90 cm、厚さ 1 cm）
- 5.（柱材、長 241 cm、径 10 cm）
- 6.（柱材、長 186 cm、径 8~10 cm）
- 7.（板材、長 115 cm、厚さ 2~3）
- 8.（柱材、長 89 cm、径 4~7 cm）
9. 切欠きのある材（柱材、長 141 cm、径 9~12 cm）
10. 端部に欠込（頸貫き?）がある材（柱材、長 127 cm、径 13~15 cm）
11. 端部外面を削り一回り径を小さくした材（柱材、長 125 cm、径 8~10 cm）
- 12.（垂木か、長 110 cm、径 2~3 cm）
- 13.（垂木か、長 171 cm、径 3~4 cm）
- 14.（板材、長 81 cm、幅 5 cm×9 cm）
15. 端部を杭状にした材（護岸の用材、長 110 cm、径 12 cm）
- 16.（柱材、長 78 cm、径 6~8 cm）
- 17.（柱材、長 108 cm、径 4~7）
- 18.（板材、長 78 cm、幅 3 cm×8 cm）
- 19.（棒材）
20. 枝分かれした部位を残し、端部を杭状にした材（棒材、長 102 cm、径 5 cm）
- 21.（棒材）
22. 端部を杭状にした材（棒材、長 71.3 cm、径 6 cm）
23. 端部を杭状にした材（杭材）
24. 端部を杭状にした材（杭材）
25. 端部を杭状にした材（杭材）
- 26.（角材）
- 27.（角材）
- 28.（角材）
- 29.（板材）
30. ほぞ穴のある材（板材）
- 31.（板材）
32. 切欠きのある材（板材）
- 33.（板材）
34. 側刃を薄く加工する材（板材）
- 35.（板材）
36. 短辺をわずかに折り返した材（板材）
- 37.（板材）
- 38.（板材）
39. 端部を斜めに加工した材（板材）
40. 端部を杭状にした材（棒材）
41. 端部を杭状にした材（棒材、長 150 cm、径 5 cm、イヌガヤ）
42. 両端に縄掛け溝のある材（棒材、長 180 cm、径 5 cm、イヌマキ）
- 43.（角材）
44. 欠込のある材（長 111 cm、径 10.2 cm）
45. 端部を杭状にした材（棒材）
46. 一木から足掛け部が造り出された梯子（長 155.5 cm、幅 14.2 cm、厚さ 4 cm、イヌマキ）

遺跡名：徳蔵地区遺跡 所在地：和歌山県日高郡南部川村 古墳時代前期

文献：(財) 和歌山県文化財センター『徳蔵地区遺跡』—国道424号線道路改築事業に伴う発掘調査報告書— 2003



- 1.欠込と縄掛け溝のある材（垂木か）
- 2.縄掛け溝のある材（垂木か）
- 3.欠込と縄掛け溝のある材（垂木か）
- 4.端部が杭状になる材（棒材）
- 5.枝分かれした部位を残し、そこを境に下位は断面円形、上位は一回り小さく断面方形となり、端部を杭状にする材（高床建物用柱か）
- 6.枝分かれした部位を残し、そこを境に下位は断面円形、上位は一回り小さく半裁された形状となり、端部を杭状にする材（高床建物用柱か）
- 7.端部に切欠きと縄掛け溝がある材（横架材か）
- 8.（柱材）
- 9.端部が杭状になる材（柱材か）
- 10.（板材）
- 11.未貫通孔のある材（板材）
- 12.未貫通孔と側面に溝がある材（板材）
- 13.（板材）
- 14.（角材）
- 15.（棒材）
- 16.（板材）
- 17.端部が杭状になる材（棒材）
- 18.（棒材）
- 19.欠込のある材（垂木か）

遺跡名：鳴神Ⅱ・V遺跡　所在地：和歌山県和歌山市　古墳時代前・中期

文献：和歌山県教育委員会『昭和45年度阪と高速道路（近畿自動車道と和歌山線）遺跡発掘調査概報』1971

和歌山県教育委員会『鳴神地区遺跡発掘調査報告書』一般国道24号バイパス関連遺跡発掘調査

1984

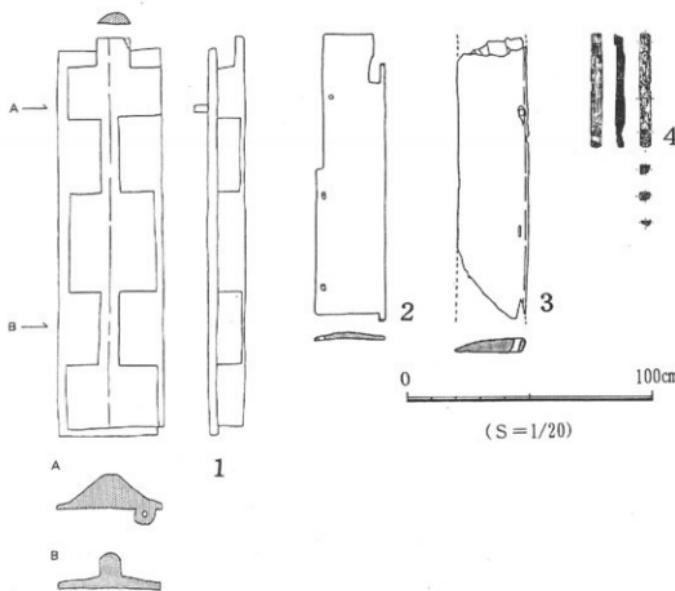
松岡良憲「和歌山県鳴神遺跡出土の「屋根型木製品」について」『光陰如矢－荻田昭次先生古希記念論集一』1999

1. 装飾的な凹凸をもつ断面三角形の意匠を造り出し、そこから連続する欠込・突出部と反対面にはほぞ穴をもつ材で、そのほぞ穴に付属して蟻ほぞをもつ、方形で中心に孔のある材があるもの（長160.8cm、幅42.0cm、厚さ14.8cm、方形の付属材は8cm四方、厚さ3cm、孔径3cm）

2. 突出する軸と抉り、L字状の切り落としと板接ぎの可能性のある方形孔のある材（扉材、長114.8cm、幅28.8cm、厚さ2.8cm）

3. 板接ぎの可能性のある方形孔のある材（扉板材か、長115.2cm、幅28.4cm、厚さ5.0cm）

4. 欠込のある材（棒材）



出土建築材資料集

—縄文・弥生・古墳時代編—

第2分冊

東海・近畿

発行年月日 平成17年3月31日

編集・発行 小矢部市教育委員会文化課

〒932-8611

富山県小矢部市本町1-1

TEL 0766-67-1760

印 刷 小矢部印刷

